



*カバー画像はブルーレイ盤です

豊野 ⇒ 越後川口 4K 撮影作品*

ANRS-72413B / 本編約 170 分 5,500 円 (税込)
 ANRS-72412 / 本編約 170 分 4,950 円 (税込)

■撮影日 / 2023年10月26日(水) 晴時々曇 131D
 ■区間 / 豊野(10:44発) ⇒ 越後川口(14:06着) キハ110系

■ 本編の概要 ■

豊野を発車し、少しずつ勾配を上って行く北しなの線と別れ、長野盆地内を走って行く。右側に時折、千曲川が望めるようになり、替佐を過ぎると山間部に入り、雪崩覆いやトンネルがある。やがて市街地が広がってくると北陸新幹線ホームが頭上を交差する飯山に着く。戸狩野沢温泉を経て、千曲川の沿って更に進み、森宮野原を出発すると県境を越えて新潟県に入る。冬には豪雪地帯となる津南の街並を後にし、越後鹿渡の先で信濃川を渡る。北越急行線と接続する十日町を出ると、再び山間部を走り、越後岩沢の先では線内で最長の妙高山トンネルを抜ける。魚野川を渡り、右から上越線が現れると、ほどなく越後川口に到着となる。

■ JR 東日本商品化許諾済

◆ 展望本編の主なキャプチャ画像 ◆

*本編は 4K30P 規格での撮影のため、車窓の一部に残像を感じることがあります。



飯山線の起点である豊野は、しなの鉄道に属する。(撮影列車は長野始発)



発車すると北しなの線(左)と1.5kmほど並走した後、離れて行く。



長野盆地を囲む山々を見ながら進んで行く。右手奥には高社山が望める。(替佐～蓮)



北陸新幹線がクロスする飯山。立派な新幹線駅舎だが、在来線は島式ホーム1面のみ。



豊野を出て、約40分後の戸狩野沢温泉で、初めての列車交換が見られた。



蛇行する千曲川の流れて、険しい山裾の区間を進んで行く。(戸狩野沢温泉～上境)



豪雪地帯を走るので、線内の至る所に雪崩覆いが設置されている。(上境～上桑名川)



山あいの中条川を渡る。頭上を走る国道から望める有名撮影ポイントだ。(横倉～森宮野原)



森宮野原で上り列車と交換。飯山線で定期運用されている車両は、キハ110系のみだ。



長野と新潟との県境を走る。越境すると管轄する支社も新潟になる。(森宮野原～足滝)



線内では比較的大きな町である津南だが、駅は棒線化されて侘さが漂う…



ここまで、流れに沿ってきた信濃川*を初めて渡る。*長野県内は千曲川(越後鹿渡～越後田沢)



十日町に到着。構内に「おいこつ」も見える。左上の高架は北越急行線である。



線路の脇のススキや空に浮かぶ綿雲が、秋の趣を一層引き立てられる。(魚沼中条～下条)



魚野川を渡ると、右から上越線が接近し、終着の越後川口へと向う。(内ヶ巻～越後川口)



越後川口に到着。のんびりとした、秋のローカル線の旅も終わる。

■ 撮影時の気象条件や機材との関係により、明暗のバランスの乱れがある区間があります。また、列車の進行方向によって、逆光による反射光で正面ガラスへの写り込み、汚れ等で展望が見づらいと感じる区間もありますが、あらかじめご了承ください。

■ キャプチャ画像は、お手持ちのパソコンやテレビ等の環境により、実際の映像より色味が違って見える場合がございます。